

特定技能の教育施設開校 各機関と連携 オノデラユーザーラン

2023/01/31 ジャカルタ新聞

特定技能外国人の日本への送り出し事業などを手掛けるオノデラユーザーラン（本社・東京都千代田区）はこのほど、特定技能資格取得に関する無償教育施設「オノデラユーザーラン・ジャカルタセンター」の新校舎を完成させ、18日から対面授業を始めたと発表した。

南ジャカルタ・チランダックのファトマワティ駅付近に立地する同センターでは、対面で630人の学生教育が可能。介護分野をはじめとする特定技能の教育を推進する中核拠点に位置づける。

延床面積1100平方メートル以上におよぶ施設には、実習室や介護分野に対応できる専門設備を完備し、実践的な指導が行える環境を整える。

介護分野に加えて、建設・自動車整備分野にも対応する予定で日本語や各分野の専門学習などのプログラムを提供する。

同社は今後、インドネシア労働省職業訓練・生産性向上総局と提携の覚書（MOU）を締結する予定という。

国立の職業訓練校「アンディニ・プルサダ・マムジュ看護学校」、「ブラウイジャヤ国立大学コンピューターサイエンス学部」ともそれぞれ協力関係を構築していく。

同社は現在東南アジア7カ国に日本語・特定技能の教育拠点をもち、各分野の専門教育を推進する。2023年度中に7カ国で年間計1万人の特定技能外国人を教育する体制を確立していく方針で、「日本で長く働きたい外国人」と、超高齢化社会に悩む日本全国の事業者をつなぎたい」としている。